

公共システム Public Systems

スタジアム向け大型映像ソリューション

Large Display System Solution for Stadium

当社は大型映像表示装置“オーロラビジョン”及び“オーロラリボン”を、多くのスタジアムに納入してきた。最近の大型スタジアムなどでは、臨場感と観客の一体感を高めることで集客力の向上を図っている。スタジアム内の臨場感を高めるため、大型映像表示装置は大型化や高解像度化が進むとともに、近年では観客との一体感醸成のため、多画面化や映像の連動表示による演出性向上が進んでいる。

多画面連動を実現する上で重要になるのが映像の同期技術である。複数の大型映像表示装置に対して映像を送出するタイミングを高精度で同期させることによって、一体感のある演出を行うことができる。しかしながら、大型映像表示装置が多画面化することによって、観客に提供できる情報や演出の種類が増加するため、表示を制御するオペレータがより多く必要になる。オペレータが多いほど、複数の映像装置へ表示の同期をかけることが困難になり、多画面連動演出は難しくなる。そこでワンオペレーションで多画面連動による多彩な演出が行えるよう、1台の端末から複数の映像送出装置を統合制御可能な、ワンオペレーションシステムを構築する必要性が高まった。

特にスタジアムや野球場にはメインビジョン、サブビジョン及びリボンビジョンがあり、複数の映像装置をワンオペレーションで制御する必要がある。野球を例にするとホームランの演出ではメインビジョンとリボンビジョンにホームラン動画を送出するが、これまで一般的にはメイン

ビジョンとリボンビジョンそれぞれのオペレータがタイミングを合わせて個別の機器の送出ボタンを押下することで表示をしていた。

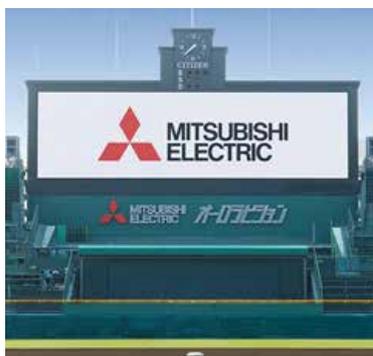
このような背景の中、当社は統合制御システムを開発し、各映像送出装置(スポーツコーダやプレゼンター)に映像送出の指令を出すことで各映像装置の制御をワンオペレーションで可能にした。また各映像装置の映像送出タイミングを合わせるため、各映像機器への指令送出タイミングを1/100秒単位で調整することで、各大型映像表示装置の映像の同期をとることができ、より多彩な映像演出を実現可能にした。

2019年に当社は大型映像装置及びこの統合制御システムを阪神甲子園球場向けに納入した。阪神甲子園球場向け大型映像表示装置は従来3分割されていたビジョンを、1面化して大型にすることで(縦：8.32m(約1.3倍)、横：29.76m(約1.2倍))、更新前と比較して表示面積が約1.6倍、表示解像度は8mmピクセルピッチの最新機種を導入で約4倍になり、より鮮明で迫力のある映像の提供を実現した。

大型映像表示装置は、スタジアムでしか味わえない臨場感のある大迫力の映像で感動を観客に与え、足を運んでもらえるような施設の楽しさを提供するものが求められている。これからも当社大型映像表示技術でスタジアム集客に寄与して地域発展に貢献していく。



メインビジョン(更新前)



メインビジョン(更新後)



サブビジョン(更新後)

阪神甲子園球場向けオーロラビジョン